



「新防災教育副読本を活用した指導事例」

学校名 [愛子小学校] 氏名 [鈴木 香代] [小] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [けがをしたときは] P 44～45 教科・領域名 [体育] [時間 45分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
1 普段の生活で、けがをしたときの処置をどのようにしているか考える。 ・水で洗っている。 ・絆創膏を貼っている。 2 けがをしたり、倒れていたたりする人を見つけたとき、大人の人にどのように伝えたらよいか考える。 (1) 自分で考え、新防災副読本 P41 の吹き出しに書き込む。 (2) 付箋に自分の考えを書き、ワークシートに貼り付けながらお互いの考えを共有する。 (3) 大人の人に伝えるために、どんな点が含まれていなければならないかを確認する。 (4) 大人の人への伝え方(文)を班で話し合い、ワークシートにまとめる。 3 班で考えた伝え方を前に出て発表する。 4 副読本 P40 を読み、自分でできる手当ての方法を知る。 (1) 傷などによる出血の手当て (2) 打撲 5 副読本 P41 の囲みを確認し、身近なものが手当てに役立つことを知る。 ・時間があれば、レジ袋とハンカチを用いた止血法などを実際に行わせる。 6 まとめ 本時の学習を終えての感想をノートに記入する。	・自作の動画を用意し、階段の踊り場に人が倒れている様子を見せ場面をイメージさせる。  ・2の(2)以降はグループの形態で行わせる。 ・「どこで」「だれが」「どんな様子」など含まれていないと適切に伝えられないことに気づかせるようにする。  ・圧迫止血体験の様子 